

日本史研究推進委員会

共同研究「神奈川の地域史研究とその教材化—歴史総合・日本史探究をどう教えるか—」経過報告

神奈川総合産業高校 高橋 俊介

2022年度入学生から新しい学習指導要領がスタートし、多くの学校で「歴史総合」の授業が始まりました。そして、「日本史探究」の授業も始まります。2022年度は、神奈川の地域史研究と教材化も進めながら「歴史総合・日本史探究をどう教えるか」というテーマで研究に取り組んできました。世界史推進委員会とは6月と12月との二回にわたり合同例会を実施し、それぞれの委員会から「歴史総合」の授業を担当している委員が授業の実践報告をしました。指導計画から教材、授業内容、定期試験、学習評価、そして生徒の反応や授業における課題などを共有することができ、大変有意義な研修となりました。また、神奈川県立歴史博物館とは5月・10月・3月に「歴史総合」「日本史探究」の教材化に向けて博学連携を進めました（詳細は別稿参照）。そして、8月には日本史サマーセミナーを2日間の日程で開催しました。ここでは、月例会と日本史サマーセミナーを中心に活動をご報告いたします。コロナ禍の中、会場を提供していただいた各校の皆様には厚く御礼申し上げます。

1 月例会 月／会場（内容） ●は世界史研究推進委員会との合同、▲は神奈川県立歴史博物館との合同

4月／神奈川総合産業（年間計画の検討）、5月／▲希望ヶ丘（戦国期山城の教材化）、6月／●湘南（「歴史総合」授業実践報告会①）、7月／横浜翠嵐（1950年代日本における教職員組合運動と教師）、9月／中止、10月／▲県立歴史博物館（特別展「源頼朝が愛した幻の大寺院 永福寺と鎌倉御家人」見学）、11月／鎌倉学園（「日本史探究」を視野にした中世古文書の教材化の試み）、12月／大磯（関東大震災をテーマとした地域学習と探究、身近なものから歴史を考える）、●湘南（「歴史総合」授業実践報告会②）、1月／横浜緑園（疫病に対峙した人々、日本史Aから歴史総合へ）、3月／▲県立歴史博物館（歴史総合で「大衆化と私たち」をどう教えるか）で実施しました。

2 日本史サマーセミナー

8月19～20日の二日間、横浜翠嵐高校を会場に「「歴史総合」から「日本史探究」へ」というテーマで実施しました（詳細は別稿参照）。午前は高校生を対象に大学教員が講義を、午後は教員を対象とした大学教員の報告と高校教員による「歴史総合」の授業実践報告を行いました。講師には成田龍一氏（日本女子大学）、戸邊秀明氏（東京経済大学）、酒井晃氏（日本女子大学）、今泉裕美子氏（法政大学）、石居人也氏（一橋大学）、大串潤児氏（信州大学）をお迎えし、県内だけでなく県外からも参加者があり、研究協議も活発な議論が交わされて大変充実した研修になりました。

3 その他

巡検は夏の実施で愛川方面を回りました（詳細は別稿参照）。あつぎ郷土博物館（山岡学芸員の解説）、八菅神社、愛川町郷土資料館（岩田学芸員の講義）、ベトナム寺（バオ副住職の案内）などを見学しました。また、10月15日と11月5日には横浜翠嵐高校で「歴史総合」をテーマとする土曜セミナーも実施しました。講師には大串潤児氏、和田悠氏（立教大学）をお迎えしました。

最後になりますが、本会では中堅教員を中心に若手や再任教員まで最新の歴史研究を踏まえた教材研究に関心をもって活動しています。研修および研究成果は、県内の公立・私立学校の先生方に紹介するとともに、多くの高校生の学びに還元することを目指しています。活動に興味を持たれた方は、委員長の高橋か副委員長の桐生まで気軽にご連絡ください。新採用からベテランまで関係なしに、日本史研究推進委員会で一緒に学びを深められる仲間が増えると大変心強いです。